

佐久市都市計画マスタープランの地域別構想策定に係る まちづくりタウンミーティングを開催結果

1 タウンミーティングの目的

タウンミーティングとは、地域の現状・課題やまちづくりの方針について、市民のみなさんと市役所がともに考え、意見交換を行う対話型の会議です。

- 本市では、まちづくりの基本方針である「佐久市都市計画マスタープラン」について、平成29年度中の全面改定を目指しています。
- 都市計画マスタープランは、市全体の都市計画の基本的な方針を示す「全体構想」と、市内各地域のまちづくりの方針を示す「地域別構想」によって構成されます。このうち地域別構想については、今年2月・3月に行ったまちづくりワークショップの結果などを踏まえながら策定を進めています。
- 今回のタウンミーティングは、建設的な意見の積み重ねにより、策定中の地域別構想の内容をより一層充実させるとともに、具体的な施策につなげる方策について話し合うことを目的に開催しました。

2 開催概要

タウンミーティングは、地域ごとに以下の日程で行いました。

地域	日時・会場	参加者
浅科地域	平成29年8月21日（月）午後7時～ 浅科支所2階大会議室	12名
浅間・東地域	平成29年8月22日（火）午後7時～ 創錬センター多目的室1	21名
中込・野沢地域	平成29年8月23日（水）午後7時～ 野沢会館2階多目的室1号	17名
望月地域	平成29年8月28日（月）午後7時～ 望月支所3階中会議室1	6名
臼田地域	平成29年8月29日（火）午後7時～ あいとぴあ臼田多目的室3	13名

3 当日のスケジュール

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 都市計画マスタープランの概要について
- 4 タウンミーティングの概要について
- 5 地域別構想に関する意見交換
 - ①将来像について
 - ②施策展開の方針について
 - ③主要な施策について



4 意見交換の概要

■ 浅間・東地域

□ 将来像を描く上での地域の課題

- 全ての課題のベースに人口減少の問題がある。人口を増やすためには就業の場づくり、出生率の向上を図る必要がある。
- 中小企業の力を活用できていない。
- 旧市街地などでは、空き家や荒廃農地が増加している。
- 同じ地区の中でも、人口増減や高齢化の状況は異なるということを念頭に置いてほしい。
- 軽井沢など周辺都市との連携が必要。
- 岩村田商店街の振興が必要。
- 地域資源の活用が必要。(計画においては、鼻顔稻荷、ヒカリゴケなど具体例を挙げるべき)
- 地域になにか変化や動きがないと、市民が市の取組に気付くのは難しい。具体的な施策の展開を検討してほしい。
- 創錬の森の整備については、周辺施設の整備も含めて県との足並みを揃えてほしい。
- 計画の内容と、市民の日常生活がきちんとリンクするように検討してほしい。

□ 将来像・施策展開について

- 複合市街地として、「観光」というキーワードは重要。
- 将来像は、「住みやすさ」「人が集まる」というような観点も踏まえて検討し、人口減少させないまちを目指してほしい。
- やはり「健康長寿」は大きな特長のひとつだと思う。
- これからの地域を支える「子どもたち」「教育」「学び」「ふれあい」といった観点も必要。
- IC周辺のイメージを向上させてほしい。
- 人を呼び込むには、視覚的なイメージも重要。IC周辺や駅前などについては、市の玄関口としてのデザインや景観維持を検討していくべき。
- 店舗ごとの個性が輝くような商店街づくりをしてほしい。
- 老若男女が利用できる施設の整備を検討してほしい。
- 佐久病院は地域医療の先駆けとして高い評価を得ており、国内外での知名度がある。こうしたポテンシャルをもっと生かし、交流人口を受け入れやすいまちづくりを進めてほしい。
- 道路沿道の植栽の手入れや雑草の草刈りなど、道路を造ったあとのメンテナンスを考えてほしい。
- 佐久平駅南地区については、イオンありきの開発ではなく、住宅やバスターミナルなどを含めた住みやすい便利な地区にしてほしい。
- 市内巡回バスは、時間帯や巡回地域などについてきめ細かい対応をしてほしい。
- 武道館建設にあたり、周辺のアクセス、駐車場、宿泊施設などについても検討してほしい。
- あらゆる資源(教育、健康、安心、文化、人口、雇用等)を活用した資源サイクルシステムの構築が次世代を救うと考えている。

■ 中込・野沢地域

□ 将来像を描く上での地域の課題

- 中込の商店街はシャッター街化しつつある。このまま放置するのは問題だと思う。
- 今後さらに IC 周辺への商業集積が進んだ場合に、商店街がどんどん疲弊していくことを危惧している。
- 中込会館の跡地利用を検討してほしい。
- 内山峡については観光資源としての整備を検討してほしい。
- 千曲川の河川敷が荒れている。外来種も増えていて見通しも悪い。
- 送電線が目障り。長期的なスパンで地下化を検討してほしい。
- 佐久平が市全体の玄関口。佐久平から他地域への移動を促進するような公共交通網を整備してほしい。現行のサービスがわかりにくいいため、情報提供や車体デザインなども含めて市民へのアピールを。
- 自家用車がないと日常生活がとても不便。

□ 将来像・施策展開について

- 歩いて暮らせるまちというテーマを推し進めてほしいが現状では難しい。自動車利用を制限してでも、歩行者・自転車が暮らしやすい環境を実現してもらいたい。
- 安全で明るいまちであれば、移住者も増えると思う。
- 人口が減少することで税収も減少し、ハード整備が困難になるのは仕方ない。施設整備というよりは、基本的な暮らしやすさを守ってほしい。
- 運動公園を活用してほしい。野球やサッカーだけではなく色々な種目の会場として位置付けられれば。
- 野沢にはくろさわ病院があるのだから、バリアフリー化を推進して、市全体のモデルケースにしてほしい。
- 公共交通は、利用者が多い時間帯だけでもサービス水準を上げるなどの工夫をしてほしい。民間団体などボランティアで来訪者の送り迎えをしている人もいる。民間の力を活用してはどうか。

■ 臼田地域

□ 将来像を描く上での地域の課題

- 臼田は健康のまちと言うが、直接的に健康アップにつながる施策がない。
- 臼田IC周辺の土地利用については、農地のあり方を含めて検討してほしい。
- 佐久病院へのアクセスや、新小学校への安全な通学路の確保について検討してほしい。
- 五稜郭の大手門側はきれいだが、裏に回るとゴミや倒木が多い。
- 都市マスは20年後を見据えた計画とのことだが、それまで地域が持たない。
- 計画と地域の実情がリンクした計画にしてほしい。
- 市外からは、自給自足の生活や地産地消などを求めて移住してくるが、地元からはそうではないように感じる。移住者と地元の人とでニーズが異なる。
- 昔は山間部でも生活が成り立っていた。今は、佐久臼田ICの周辺でも獣害が深刻で、もはや山間部は魅力的なエリアではなくなっている。山間部地域についても検討してほしい。
- 商店の後継者がいないため、自分の代で店を閉じるという声も聞く。活性化の方向性についての議論が必要だと思う。

□ 将来像・施策展開について

- 「協働」という言葉の意味がわからない。なぜそれが健康につながるのか。
- 佐久病院があるので、予防医療・集団健診の受診率や健康館の利用率など、健康につながる数値を明示してはどうか。
- 豊かな地域づくりは、時代を担う子どもたちがどれだけその地域に住んでいるかだと思う。将来像に「子育てにやさしい」という視点を取り入れ、子育て世代が住みたいと感じる佐久市を目指していくべき。
- 生活インフラの整備やバリアフリー化も重要。段差解消や新小学校への安全なアクセス確保などが必要なのではないか。
- しっかりした道を増やすことで地域内外のアクセスが良くなると思う。
- 駅の近くにもっと駐車場があると良い。(パークアンドライド)
- 小海線の利便性を向上させ、地域の移動手段としての活用を検討してほしい。ハード整備ができなくても、ソフト面でやれることはあるはず。デマンドタクシーに頼りすぎない施策を考えてほしい。例えば、パークアンドライド、フリー乗車券にしなの鉄道を参画させる、中込以南の増便など。
- 佐久は車社会なので、パークアンドライドが効果的だと思う。他地域から臼田に来て車を止めて公共手段で移動、というパターンも想定できる。
- 若い人を呼び込むためには地域全体で共有できるコンセプトが必要だと思う。例えば健康をテーマに、食・職・遊など様々な業種をリンクさせる。また、空き店舗や地域資源(千曲川、農園など)の活用も検討すべき。

■ 浅科地域

□ 将来像を描く上での地域の課題

- 浅科においては、農業に関する課題が多い。後継者不足や高齢化の進行等により、荒廃農地（耕作放棄地）が増加している。
- あちこちで農地が宅地化されており、虫食い状態になっている。
- 農業環境の維持について、もう一步踏み込んだ提案が必要。
- 農業をやりたい人（地域外の人・若者）を取り込む工夫が必要。
- 生活環境面の課題として、緊急車両が通行できない狭小道路がある。
- 宿場環境の整備といっても具体的な施策がないのではないか。
- 公共施設のあり方を検討するべき。
- 大池の活用について検討するべき。
- 計画策定の前提となる部分として、合併後の地域の問題点をきちんと整理した上で検討を進めてほしい。

□ 将来像・施策展開について

- 各農地の区画が小さすぎるのではないか。農地の集約化が必要。
- 浅科地域は分散型の地域特性を持っている。それぞれの集落は離れているが、ひとつひとつがコンパクトにまとまっており、相互のネットワークができると良いのではないか。
- 中山道は観光客が歩けるような環境にしてほしい。

■ 望月地域

□ 将来像を描く上での地域の課題

- 荒廃農地が増加している。獣害も深刻。
- 長者原などで新たに農業を始めたい人もいると思うが、地域とのつながりがないと畑を借りるのも難しい。農地バンクのような形でコーディネートができれば良いのではないか。
- 大河原峠は土砂崩れで通行止めになっている。今後どうしていくかは課題。
- 清流（八丁地川、鹿曲川）と言うが、実際は芦が生い茂っていてきれいではない。ゲリラ豪雨等の災害もあるため、適切な管理は必要。
- 人口減少や高齢化の進行に伴い、自治会活動への参加者が減少し、地域コミュニティが疲弊しているように感じる。
- 宿場の環境整備といっても、住民にうまみがない。
- 歴史的建造物は、補助がないと維持管理が難しい。リフォームして住んでいる人もいるが、大半の人は金銭的に難しいと思う。
- 古民家をリノベーションしたい若者は多いがマッチングしていない。
- 地域の人たちが集まれる場所があるといい。
- 空き小学校の利用検討。

□ 将来像・施策展開について

- 都市部と農村部は別々に考え、農村部においては、農政課や耕地林務課と共に施策を展開していくべき。
- 佐久市の健康長寿を考えていく上で、空いている小学校や保育園の利用を考えてはどうか。
- 望月宿・茂田井間の宿は望月の名所ではあるが、実際はそれ以外の場所に住んでいる人が大半。歴史だけではなく、住みやすさ・暮らしやすさといった観点も取り入れてはどうか。
- 今ある財産（＝地元の宝物）を生かしていく。空き家については、活用するのか除去が必要なのかの見極めも必要。
- 望月ではほとんどが兼業農家。農地の維持が難しくなっても売りたくないという人も多い。そのライフスタイルは今後も大きくは変わらないのではないか。
- クラインガルテンの数が少ないと思う。以前クラインガルテンに入っていた人が、その後地域内に住み始めて農園を始める例もあり、需要は大きい。公的なシステムがあれば貸借がもっとスムーズになる。
- 地域を流れる川はいずれもとても良い川だと思う。もっと親水空間として活用してほしい。
- 地域の人たちには自然を大切にするマインドがある。それを親が知り子に伝えることで人材育成にもつながる。